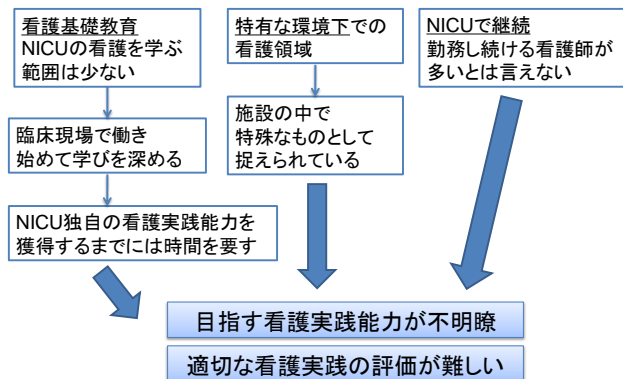


新生児看護 (Neonatal Intensive Care Unit) における クリニカルラダーを活用しよう

日本新生児看護学会
標準化（教育）委員会



NICU版クリニカルラダーを 作成した経緯は？



JNAクリニカルラダーをもとに、
ハイリスク新生児看護に関わる看護師の
キャリア発達、それに必要な教育の全体像を示していく

1) 意義

新生児看護、特にハイリスク新生児に関する教育は、基礎教育から現任教育全体を通じて統一した指針はない。また、施設においてケアの対象となる新生児の重症度も多様である。そのため、どのような場においても活用できるクリニカルラダーを示すことは、ケアの質向上や看護職のキャリア発達支援のためにも重要である

2) NICU版クリニカルラダー作成の目的

あらゆるNICU(ハイリスク新生児看護に携わる看護職)に共通する看護実践能力の指標の開発と支援

- ①看護実践能力の適切な評価による担保と保証
- ②看護職のキャリア発達支援(具体的な目標をもつことができる)
- ③新生児や家族へ安全で安心な看護ケアの提供

NICU看護師のクリニカルラダー作成のステップ

- ①JNAクリニカルラダーをもとに、
NICU看護師のクリニカルラダー(案)を作成
- ②NICU看護に関わる看護職からの意見を集約
必要時、修正して公開
- ……………同時に検討中……………
- ③クリニカルラダーの目標を達成するための教育プログラムを作成
標準的な内容を公開

JNAクリニカルラダーをもとに検討… もととした看護師の クリニカルラダーとは？



看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版) 開発の目的

- 1.看護実践の場や看護師の背景に関わらず、
全ての看護師に共通する看護実践能力の指標の開発と支援
- 2.看護実践能力の**適切な評価**による担保および保証
- 3.患者や利用者等への**安全で安心な看護ケアの提供**

<http://www.nurse.or.jp/nursing/jissen/kaihatsu/index.html#03>

看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版) 特徴

- 1.あらゆる施設や場における全ての看護職に共通する能力として、
看護実践能力に焦点化している
- 2.看護の核となる実践能力を
「論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を実践する能力」と定義している
- 3.看護実践能力の構成は、以下の4つの力としている
 - ☆ニーズをとらえる力
 - ☆ケアする力
 - ☆協働する力
 - ☆意思決定を支える力
 *4つの力は密接に関連し、どの場においても発揮される
- 4.習熟段階は、レベルⅠからⅤの**5段階**

看護実践能力を構成する4つの力



<http://www.nurse.or.jp/nursing/jissen/kaihatsu/index.html#03>

看護師の臨床実践能力と発達段階について検討

		発達段階				
		I	II	III	IV	V
看護実践能力	ニーズをとらえる力					
	ケアする力					
	協働する力					
	意思決定を支える力					

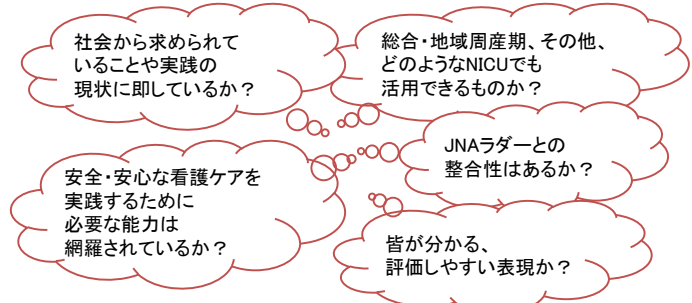
ラダーの各段階の目標を達成するために必要な教育内容の検討（階段を上るために必要な教育内容は？）

JNA臨床実践能力をもちに 新生児看護(NICU)の 臨床実践能力を評価



NICU版臨床実践能力ラダー 作成時の留意点

JNAラダーの看護実践能力について、NICUにおける実際の新採用者の知識・技術の習得状況などを踏まえ、**NICUではどのような能力と捉えられるかを検討**



NICU版ラダー作成時に配慮したこと

NICU版ラダーは、ある程度の経験年数と期待する能力を想定して作成

レベル1	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	1年目看護師 役割や機能の理解 子どもとその家族、自施設や自部署
レベル2	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	2～3年目看護師 役割機能を理解 周りが見えてくる
レベル3	発達段階や疾患・病態に応じて個別的な看護を実践する	5～6年目看護師 部署全体の方針課題の考察
レベル4	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	7年目以上の看護師 部署全体の方針課題をふまえた行動 自ら何をすべきか考えられる
レベル5	より複雑な状況においても、新生児や家族にとっての最適な手段を選択し看護を実践する	10年目以上の看護師 医療看護の動向をふまえて施設や部署が進む方向性を理解 貢献できる行動

1) ニーズをとらえる力

「受け手」→NICUで看護の対象となる『新生児と家族』に変更

・看護基礎教育で学ぶ新生児看護の範囲は少ない
・臨床現場で働き始めて学びを深める
→知識の確認が必要

ラダー I

『新生児看護に必要な基本的知識を習得している』
JNAラダーのⅡからⅠへ項目を移動
「緊急度」→『急な変化』に変更

より状況がわかるように、
NICUでよく起こる言葉へ変更

急変や状態悪化をきたしやすい
NICUという場では、助言を受けながらも、
Ⅰの段階で問題点や観察点が抽出でき、
優先度が考えられることが必要

1) ニーズをとらえる力

入退院から退院後のことを
想定した関わりの必要性

ラダーⅡ

『退院後の生活を視野に入れた情報の収集』
『新生児の状況から状態の悪化に気づき、
自らの判断も含めて、報告する』に変更

ラダーⅡの能力として、
自ら判断できる力を身につけ
行動できることを考慮

ラダーⅢ

ラダーⅡの『支援を受けながら』という言葉省く

より主体的に
実践できることを想定

ラダーⅣ

『幅広い視野と早期に予測できる』

管理的視点とベナーという
達人ナースという観点

ラダーⅤ

レベル目標→『新生児や家族の状況を統合した上で、意味を見極め、
もっとも重要なニーズが捉えられる』
行動目標→『これまでの経験や習得した知識・技術をもって
直感的に把握できる』
『自分の行動が自分で考えられる』

2) ケアする力

それぞれのラダーレベルに沿った内容で追加
子どもの身体的・生理学的安定を図る→急変時の対応力
NICUのケアの基本となる概念→ファミリーセンタードケア(FOG)
ディベロップメンタルケア(DC)

ラダーⅠ

『安全に実施できること』
『基本的な育児ケアが習得できること』
『指示どおりに行動できること』

ラダーⅡ

『状況に応じた標準的な看護実践ができること』

ラダーⅢ

『個別的な対応ができること』
『リーダー役割が取れること』

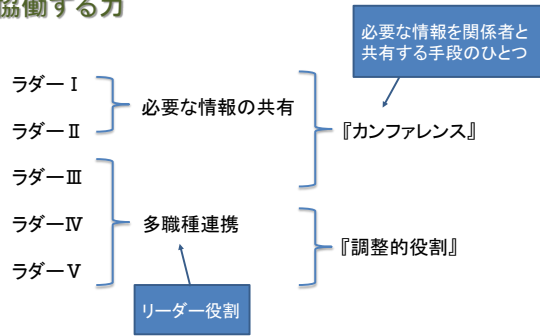
ラダーⅣ

『他への役割モデルとなること』
『長期的視点をもつこと』

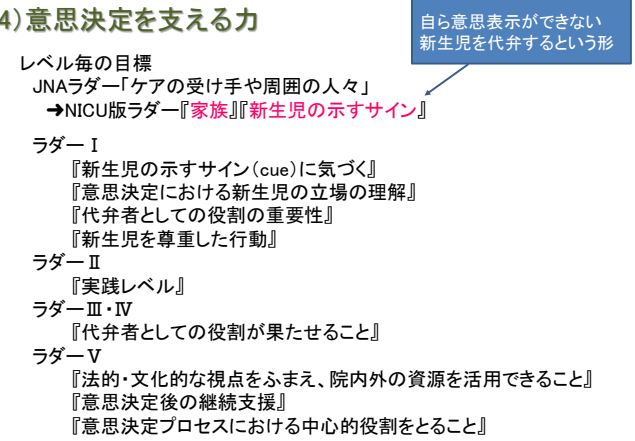
ラダーⅤ

『急変の徴候を事前に察知し、予防できること』

3) 協働する力



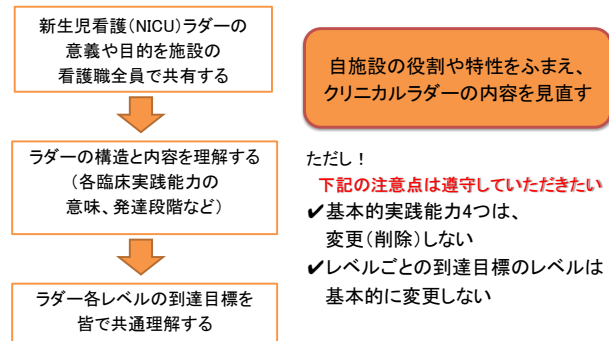
4) 意思決定を支える力



自施設で活用してみよう！

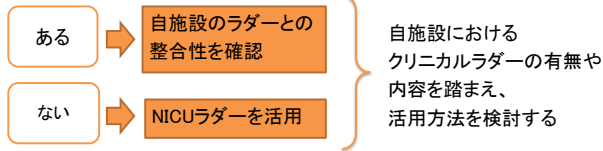


自施設で効果的にNICU版ラダーを活用する



自施設で効果的にNICU版ラダーを活用する

自施設にクリニカルラダーが



- 【例】 自施設にクリニカルラダーがある→自施設のラダーとの整合性を確認
- 自施設のラダーから読み替えて使用
 - 自施設のラダーをもとに、評価時の基準(領域別のラダー)として使用

現状にあわせ、まずは使ってみることから始めてみよう！
組織(看護部)と事前に相談し承認を得て活用できるとよりよい！

NICU版ラダーの活用の課題

【周知】

- ・学会での発表
- ・雑誌や書籍へ掲載
- ・HPの掲載
- ・NICUのある施設への配布

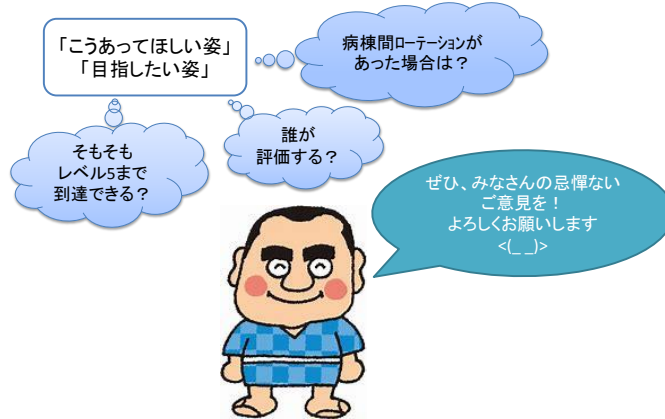
【評価・評定】

- (…?どのようになれば達成できたとするか)
- ・施設オリジナルの評価表の作成
実技テスト、筆記試験、レポート
自己評価と他者評価、面接、観察
研修や勉強会の出席
 - ・eラーニングの活用
 - ・学会主催の研修会への参加

【使用方法】

- (…?自施設のラダー評価との調整が必要)
- ・浸透するまでは2つのラダーを併用
 - ・NICUだけ独自のラダーを使用することへの抵抗
 - ・評価として活用する際の実施回数
 - ・実践力だけではない人材育成と評価
マネジメント力
感応力
社会人基礎力
自己管理

みんなで話し合ってみましょう♪



NICU版クリニカルラダー活用のステップ





クリニカルラダー活用のステップ

組織の必要とする人材の明確化

基本的な臨床実践能力に加えて、それぞれの施設・看護部の理念、施設の特性などをもとに、その組織として、どのような看護職を育成していくか

自病棟として、
どのような新生児（NICU）看護、
それを実践する看護師を育成していきたいか



クリニカルラダーにある臨床実践能力を構成する項目を、
全員（管理職もスタッフも）で、見直す



クリニカルラダー活用のステップ

目的の明確化

新生児看護（NICU）を実践する
看護師として成長するための
共通のツールであることを共通理解する

あらゆるNICU（ハイリスク新生児看護に
携わる看護職）に共通する看護実践能力の
指標の開発と支援

用語や文章が表わす内容の明確化

→スタッフだれもが同じように理解できることが大切

クリニカルラダーで用いられている用語や文章の読み合わせ
→分かりにくい用語の洗い出し

必要時、説明の追加

自施設における体制や基準・手順にあった内容に修正
（目標の示すレベルは変えないように注意して！）



クリニカルラダー活用のステップ

運用方法の明確化

原則、自施設のラダーに則って方法を検討する

クリニカルラダーと現任教育との関連の明確化

各レベルの到達目標、到達するために

- ✓院内において教育できる内容は何か？
→いつ、誰が、どのように教育するかを明確にする
- ✓院外の教育・研修の活用が必要な内容は何か？
→活用する研修、受講者の選定等を行う

ま と め

クリニカルラダーの意義・目的、構造を理解しよう

まずは、評価してみる！

評価結果や評価者・被評価者の意見から
クリニカルラダーシステムが理解できたか確認する

クリニカルラダー評価の意義や目的は理解できたかな？
クリニカルラダーの目的にあった成果は得られたかな？



疑問点や課題があれば、再度、全員でシステム全体を見直し、
看護職としての成長のために、
より活用しやすいクリニカルラダーに進化させていこう！